

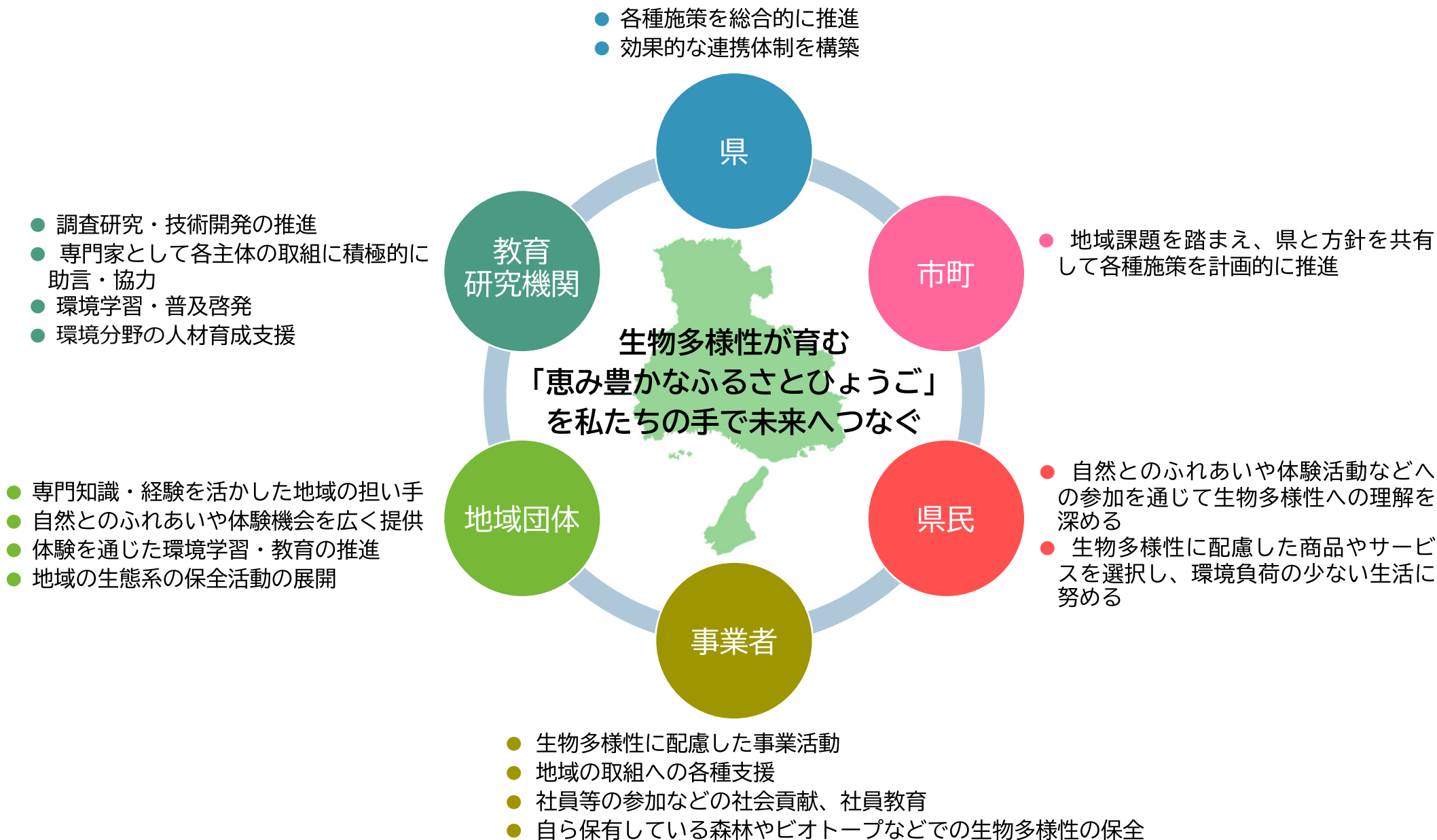


[山陰海岸国立公園]
玄武洞（豊岡市）
（ジオパーク）

第 5 章 戦略の効果的推進

1 各主体に期待される役割と連携

生物多様性の保全及び持続可能な利用を進めるには、県、市町、県民、事業者、地域団体、教育・研究機関など、**多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら、相互に緊密に連携・協働して取り組む**必要があります。





- 生物多様性の保全及び持続可能な利用にあたっては、行政、県民、事業者、地域団体、教育・研究機関など、多様な主体が境界を越えて積極的な協働・連携を図り、事業を展開する「共創」が求められます。
- 「共創」とは、多様な立場の人・組織・団体などが対話をしながら、**新しい価値を「共」に「創」り上げていく**ことです。
例えば、特別天然記念物のコウノトリ。一度は絶滅したコウノトリを人里に帰すプロジェクトは、県立コウノトリの郷公園はもとより、多様な主体による、まさに長年の「共創」によって実現。県立コウノトリの郷公園によると、国内での野外生息数は14の府県で合わせて476羽となっています(2024.7時点)。
- コウノトリが息づく地域は、生物多様性が豊かである証ともいえます。豊岡市では、地域自体が子どもたちの環境学習体験の実践の場として機能しているほか、「コウノトリ育む農法」をはじめとした有機農業や環境創造型農業が高付加価値の農産物を生み出すなど、**コウノトリを通じて地域がつながり**、生物多様性の保全をはじめ、地域経済の活性化や地域創生にも寄与しています。

野生復帰を推進

- ▶ 種の保存、遺伝的管理、各種研究



コウノトリ育む農法など

- ▶ 生物にやさしい農業が付加価値を生む



地域ぐるみでの保護活動

- ▶ 環境意識の高まりによる取組促進



河川整備での工法上の配慮

- ▶ 魚道整備等で水田や河川・水路が餌場に



環境学習の推進

- ▶ 子どもたちの環境学習体験実践の場



- 行動目標に対する進捗状況を評価するため、23の指標を設定します。
- 設定した指標は、毎年度、実績値を把握して、自然環境分野の専門家で構成する「生物多様性ひょうご戦略推進委員会」に諮り、進捗状況を総合的に評価します。また、必要に応じて、指標の追加・見直しなどを行います。

基本戦略

行動目標

基本戦略Ⅰ

豊かな自然
環境の適切
な保全

1 30by30の推進

2 侵略的外来種の防除

3 野生鳥獣の適正な
保護管理

基本戦略Ⅱ

自然の恵み
を活かした
地域づくり

1 里山・里海の再生

2 生態系を活かした
防災・減災3 生物多様性に配慮した
農林水産業の推進

基本戦略Ⅲ

豊かな自然
を未来へつ
なぐ仕組み
づくり

1 生物多様性の理解促進

2 生物多様性を支える
人材育成の推進3 多様な主体が支える
基盤の充実

	指 標	単位	2023年度実績	2030年度目標
①	本県における陸域の自然環境保全割合	%	22.5	30
②	生物多様性保全プロジェクト選定件数	件	108	122
③	自然共生サイト認定件数	件	12	24
④	環境保全に取り組むNPO法人数	法人	455	500
⑤	県内で定着が確認された特定外来生物の種の数	種	31	31
⑥	野生鳥獣（侵略的外来種を含む）による農林業被害額	千円	414,802	324,000
⑦	シカの目撃効率（SPUE）全県	—	1.60	1.0
⑧	企業の森づくり参加企業数	社	46	60
⑨	里山林整備面積	ha	33,435	35,200(暫定)*1
⑩	地域団体等による藻場・干潟等の保全・再生・創出支援事業実施数	件	34	70
⑪	災害に強い森づくり整備面積	ha	42,652	52,000
⑫	自然を活かした川づくり年間整備率	%	73.3	80.0
⑬	都市公園年間利用者数	千人	12,332	*2
⑭	有機農業の取組面積	ha	1,161	1,850
⑮	主伐・再造林面積	ha	32	120
⑯	漁場環境改善面積	ha	5,632	5,749
⑰	自然公園年間利用者数	千人	34,092	37,500
⑱	県内の主な社会教育施設等における環境学習参加者数	人	126,847	130,000
⑲	ひょうごグリーンサポーター登録者数	人	873	1,050
⑳	森林ボランティア数	人	10,812	10,000
㉑	ひょうご産業SDGs推進宣言企業数	人	1,641	5,000(暫定)*1
㉒	次世代人材育成プログラム参加者数	人	207	500
㉓	市町など地域における生物多様性戦略策定数	件	52	58

*1 ⑨は新ひょうごの森づくり計画、㉑はひょうご雇用戦略において設定している直近の目標数値を2030年度の暫定目標値として記載

*2 県立都市公園の整備・管理運営基本計画（ひょうごパークマネジメントプラン）が2025年度に見直されるため、目標値はその見直しを元に今後設定予定